

受講者の立場に立つ「法定講習」のありかた、費用の透明性も追求

愛媛県大洲市 愛媛道協会長
小林 哲之

合理的な講習と費用の使われ方

安全運転管理者制度の基礎をなすものとして、安全運転管理者ならびに副安全運転管理者に義務付けられた毎年1回の法定講習がある。その内容をより充実したものに、危機管理意識の共有をはかっていくことができれば、自己流の安全運転管理から脱皮する意味でも貴重な研修の場になるといえるだろう。

県の安全運転管理者連絡協議会長だった私は、この講習のありかたについてもいろいろ思いを巡らせたことがあった。本来、最も重要なことは受講者が心から吸収したいと思うような講習会の内容のレベルアップであろうが、これはいまだに大きな課題である。受講者である安全

運転管理者を含め、行政や学識経験者など関係者が真のボランティア精神を発揮し、本気になって知恵を出し取り組んでいくことが望まれる。

当時、私が実行したことは講習の方法を少しでも合理的な姿に変えていくことと、受講者が負担する講習費用の出納を分明にするという2つのことだった。毎回、受講者は1時間いくらと定められた受講料を証拠で払っている。これはあくまで講習に対する対価である。

ところが、講習費用に還元されている割合が各都道府県まちまちであり、納入された費用と講習会の運営予算との間に相当な差額が見られたのである。講習費用として徴収されたものがそのための費用として使われていないとしたら不公正ではないだろうか。誰にでも納得できる

かたちに改めていかなければならないと考えたのは当然のことだったと思う。

その際に全国の状況を調査したのだが、講習会の運営にはいろいろな組織が当たっていて、安全運転管理者協議会のような自前の組織で行っているところ、交通安全協会に委託されているところ、家用自動車協会が行っているところなど多様だった。

管理者制度ができて間もないころならともかく、いまだに自分たちの講習の運営を他の組織にゆだねているのはどうかと考へ、愛媛県では交通安全協会の受託から、われわれの協議会へ運営を移させていただくことにした。同時に、受講費に見合うかたちで運営予算も増額したのである。

集中可能な快適講習会

講習会を少しでも快適なものにしたと考へ、それまで冷暖房や駐車場の設備が十分でないような施設で開催していたのをやめて、結婚式場やホテルといっ

た比較的環境のいい会場に変えることにした。また、講師陣もなるべく広く目配りして、お医者さんや学者など専門性の高い人で話が面白い講師を探すなど情報を集めたものである。

また、講習の修了時に渡す受講証書の形式も一新した。従来は昔ながらの表彰形式の紙に名前を毎回筆書きで書き入れていたものを小型の薄い手帳様のカード形式に改め、ハンコを捺すだけでOKということにした。さらに、毎回、夕刻ぎりぎりまで行っていた講習時間の効率化をはかり、みなさんの了解のもとに質疑応答の時間が短く終わった場合にはその時点で終了タイムに移るというフレキシブルな対応をとった。

6時間の講習は午前と午後に分かれ、間に昼食を挟むことになる。これはまさに1日がかりの仕事で、ただでさえ用事の多い管理者のみなさんにとっては負担とならざるをえない。愛媛県では毎年ほとんど全ての地区安全運転管理者協議会の会員が100%の受講率を誇っていたが、会員諸氏は例外なく中身の濃い集中できる講習会を望んでいたように思う。これは私の意見であるが、正管理者の講習時間は午後から開始で4時間、同じく副管理者は3時間といった時間帯に圧縮・集中したほうが良いと考えている。

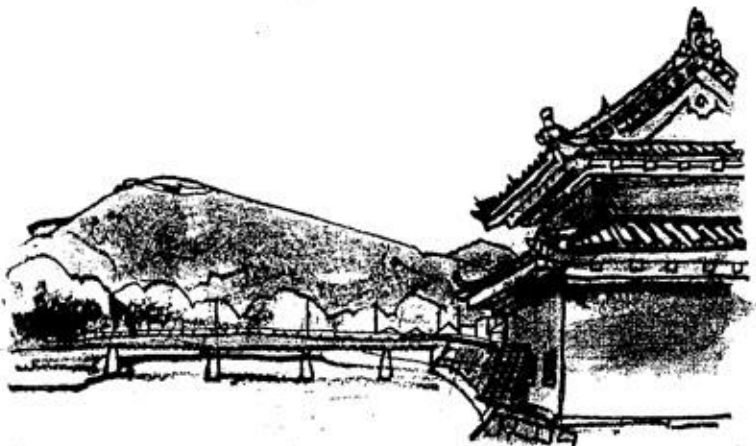
そうすれば、昼食確保の問題もなくなるし、緊張感が緩むことも避けられるだろう。

新時代に合う制度のありかた

現在、40年ほどの道交法に伴い、各都道府県で安全運転管理者協会組織が構築されているが、法定講習会とその他の活動運営方式は、発足当初の行政指導の内容形式からあまり変わっていないのが現状であると思う。

安全運転管理者協会は、人の命の重大さに深く関与し、また交通事故の減少に成果を上げている格式ある活動団体だ。今後は全国レベルでの情報交換、運営改善等をはかる意味でも、ぜひ警察庁管内での代表である安管協会長の全国会議を開催して、それぞれが集約意見を持ち寄って検討し、行政にも地区安管協運営にも改革改善が恒常的に行われることを強く願望している。

このような要望を毎年1回行われる四国管内4県安管協会長の会議と、東京で毎年1月に開催される全国交通安全中央大会の第44回大会で企業部会集の議長に選任されたときの統括会議において、行政指導でお願いしたいと提案したことがある。



絵・市川興一



小林哲之(こばやし さとし)さんのプロフィール
1942年(昭和17年)愛媛県大洲市生まれ。愛媛道協株式会社社長。大洲高校から麻布獣医科大学(現・麻布大学)に進み65年卒業と同時に父君が創業し経営する愛媛道協に入社、83年社長となり今夏、会長に就任。早くから交通安全の重要性に目を向け81年大洲安全運転管理者協議会会長に就任(在任25年)、89年愛媛県安全運転管理者連絡協議会副会長(同12年)、2001年より会長(同5年)をつとめ、愛媛県高遠道路交通安全協会副会長(同5年)なども歴任した。事業所の運転管理を中心に地域社会における安全活動の推進力となって強いリーダーシップを発揮し、その功勞により2005年春の第45回交通安全国民運動中央大会においては全国優良安全運転管理者協議会の代表として表彰状を受けた。